



さかえ

平成29年
10月号
第407号

発行 / 栄村役場



*

～栄小学校運動会～

9月16日(土)、第7回栄小学校運動会が開催されました。今年は栄小になって7回目の運動会ということで、特別ルールや中学生との玉入れ対決など新鮮味溢れる内容となりました。

赤組・白組両軍とも白熱した展開が続き、手に汗握る展開となりましたが、最後は赤組が優勝を手に入れました。

主な内容

- 平成28年度決算報告……………P2-5
- 防災訓練について ほか……………P6
- ふるさと復興支援金事業について ほか……………P7
- 口座振替制度について ほか……………P9
- 冬季臨時職員募集について ほか……………P10
- 技能五輪全国大会出場「山本菜穂さん」ほか……………P14
- 保健だより……………P15
- 公民館報(第319号)……………P18-25

スキー場冬季 臨時職員の募集

《職種・募集人数》

①リフト係②圧雪係

③レストラン係④フロント係

それぞれ若干名

《資格》

平成 29 年 4 月 1 日時点で 18 歳以上
68 歳以下の健康で明るい方

《雇用期間》

平成 29 年 12 月 11 日～

平成 30 年 3 月 31 日

《基本賃金（日額）》

①② 7 5 0 0 円

③ 6 9 0 0 円 ④ 6 8 0 0 円

《募集期間》

平成 29 年 10 月 10 日～

平成 29 年 10 月 18 日

《応募方法》

役場窓口及び秋山支所に用意して
ある採用申込書に必要事項を記入し
てそれぞれの窓口提出して下さい。

《その他》

書類審査の他、面接を実施する
ことがあります。

③④についてはパート可

【問合せ先】

商工観光課 企業係

0269-87-3355

陸上自衛隊高等工科学校生徒・ 自衛官候補生募集について

自衛隊長野地方協力本部では左
記のとおり募集します。

（陸上自衛隊高等工科学校生徒）

◇概要

将来陸上自衛隊において、高機
能化・システム化された装備品
を駆使・運用するとともに、国
際社会においても自信をもって
対応できる自衛官となる者を養
成するために、中学校卒業予定
者等を対象に採用する制度です。

◇資格 男子で中卒（見込含）

17 歳未満の者

◇受付締切・試験日

平成 29 年 11 月 1 日～平成 30 年 1 月 9 日

（自衛官候補生）

◇概要 自衛隊の第一線で技能と
体力を一心に磨く任期制自衛官

◇資格 18 歳以上 27 歳未満男子

◇受付 年間通じて実施。

◇試験日

平成 29 年 11 月 11 日、12 月 2 日

◇合格発表

志願票受付時にお知らせします。

【問合せ先】

自衛隊長野地方協力本部

0266-235-6026

北信地域就職 面接会について

飯山公共職業安定所では、北信
地域の企業の人材確保と新規学卒
者等の就職促進を目的として「平
成 30 年 3 月新規大学等卒業予定者」
及び「大学等卒業後 3 年以内の既
卒者」を対象とした面接会を北信
地域のハローワーク 4 所で開催し
ます。

◇日時

平成 29 年 10 月 13 日

◇受付 12 時～

・面接会 13 時～16 時 30 分

◇会場

メルパルク長野 1F ホール

◇持ち物

面接会受付票、筆記用具

※面接会への事前のお申込みは不
要です。参加ご希望の方は、長
野労働局ホームページより「就
職面接会受付・登録票」をご準
備ください。

【問合せ先】

ハローワーク飯山

0269-62-8609

中小企業退職金共済 制度に加入しませんか

中小企業退職金共済制度は国が
作った中小企業従業員のための制
度です。パートタイマーや家族従
業員も加入できます。また、事業
主には一定期間掛金の一部が助成さ
れる国や村の制度があります。

【問合せ先】

商工観光課 企業係

0269-87-3355

平成 30 年度 栄村 起業支援事業 補助金・栄村新規雇用奨励事 業補助金の事前相談について

村では村内経済の活性化や起業
者支援、雇用機会拡大などを目的
とした補助制度を設けています。

この補助金には対象となる要件等
がありますので、平成 30 年度に
事業を計画されている方は事前に
ご相談をお願いします。

【問合せ先】

商工観光課 企業係

0269-87-3355

〜みちのこ〜の自慢

今回は天地の山本菜穂さんにお話を伺いました。

山本さんは今年11月に栃木県宇都宮市で開催される「第55回技能五輪全国大会」に出場されます。

技能五輪大会とは、若者の技能レベル日本一を競う大会で、将来日本を支える技能者の育成やものづくりの大切さを知ってもらうことを目的に開催されます。

今回山本さんは「和裁」分野に出場されます。「和裁」とは日本の伝統衣装の和服を仕立てる職種です。和服は茶道や華道、また夏の風物詩でもある浴衣など日本の伝統文化に不可欠で、多くの日本人に親しまれる一方、世界でも注目を集めています。

山本さんは、中学3年生の頃から布地の材質や染色、加工の仕方まで様々な風合いや色、柄から創られる和服に魅了され、「和裁」に興味を持ち、その後高校、専門学校とその技能を磨かれたそうです。

染織された1枚の布を裁断し、直線的に縫製することによって優美な「着物」に仕上げる「和裁」。

この技能の魅力の一つに、国家検定試験の2級以上の資格を取得すれば、一流のプロとして自立できると

ころでもあります。山本さんは今年3月に「和裁技士2級」を取得され、長野県では、十数年ぶりの取得だったそうです。現在自宅を拠点に活動されており、先日行われました栄村の成人式でも浴衣の依頼があり、縫製されたそうです。

技能五輪出場については、「不安やプレッシャーの気持ちが強いが、決められた課題を時間内に仕上げ、自分らしさを表現したい」と伝えてくれました。

また今後の目標についてお聞きすると、「自分の手で縫製した着物が、多くの人たちに袖を通してもらいたい」ということでした。

一針一針、丹念に心を込めて日本の伝統美を仕立てる「和裁」。栄村から世界にその技能は伝承されます。



▲山本さんが縫製された着物

秋山協力隊通信

vol.28



今回は活動報告を二つ。昨年秋山郷に2歳程の小さなお子さんを連れて移住してきた夫婦がいます。秋山郷には自然は豊富にあるのですが、児童公園の様な幼児が遊べる場所がありません。秋山分校に行けばブランコやシーソーもあるのですが、まだまだ遊具で遊べるような年齢に達していませんし、住まわれている小赤沢集落から学校のある屋敷集落に徒歩

る状態を保つのも重要。「子どもは未来へつながる地域の宝」ですから、子どもを育てられる環境を保つ事も大切だと思います。協力頂いた皆様、ありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

やバスで行くのは大変です。そんな中、秋山支所前の、放置され草で覆われた砂場、草をかき分けて砂遊びをしているのを見て、なんとか砂場を復活できないか?と思いました。せっかく大型特殊免許もとりましたので、自分でやってみよう、地元の方にバックホウをお借りし、地元の生コン業者さんに砂を無償で提供頂き、砂場が復活しました。それ以降、移住者のお子様もそうですが、お盆に帰省してきた子ども達も砂場で遊んでいるのを見て、復活してよかったです!と思いました。

そして、もうひとつの活動。津南の結東で熊の解体に偶然立ち合いました。熊の手は処分すると言うので、お願いして頂いてきました。熊爪アクセサリーを作ろうと思いましたが、秋山の先輩猟師さんもさすがに作った経験がないと言う事で、インターネットで情報を集め、試行錯誤の上なんとか4つ完成しました。もう少し数が増えれば、魔除けとして身に付けていた事やマタギ文化の紹介文をパッケージに入れて、秋山郷の新しいお土産として販売したいな。と、考えていた矢先!実はこの原稿を書いている数日前に小赤沢でも熊が獲れました。この冬の活動で再びアクセサリー作りに励もうと企んでいます(笑)

活性化により移住者を増やすのが重要ですが、今あ



(地域おこし協力隊 坪内大地)



栄村初！通学合宿開催



栄村青少年育成協議会は、8月27日(日)～8月30日(水)の4日間、箕作公民館において通学合宿を開催しました。通学合宿とは長野県で推奨されている事業の一つで、子どもたちが地区公民館や公共施設に宿泊し、自分たちで食事作りや洗濯、掃除といった家事全般を行いながら学校へ通うものです。会場の近くに食材を調達できる店舗がある事、入浴施設がある事、また徒歩で登校できることの3つの条件がそろう場所として、今年は箕作公民館で開催することを決めました。

通学合宿には8名(小学校3年生2名、5年生3名、中学校1年生2名、2年生1名)の児童生徒が参加しました。子どもたちの中には、包丁を持ったことのない子、生肉を触ったことのない子もいましたが、合宿後半にもなると一人でみそ汁を作ったり、サラダを作ったりする様子が見られました。朝の活動では常慶院へ行き、歴史ある寺院で方丈様から鐘をつくときの作法を教えていただき、鐘つき体験をさせていただきました。

この4日間、子どもたちからは「おうちの人に会えなくてさみしかった」「ご飯作りが楽しかった」「お皿洗いが大変だった」「登下校中、いつも以上に話しながら帰ることができて楽しかった」「すごく楽しかった。また参加したい」といった感想がありました。家を3泊も離れたことのない子が多かったので、ホームシッ

クになるのではないかと心配しましたが、それぞれ楽しめた様子が伺えます。きっと学校から帰ってきて、ご飯作りや掃除、後片付けといった役割がある事、協力しながら作った料理をみんなから「おいしいよ」と言われるうれしさや、作り上げた達成感がそう感じさせたのではないのでしょうか。参加した子どもたちは日に日に包丁使いや洗い物の手つきが良くなり、お互いに声を掛け合いながら協力をして作業を進めるようになりました。子どもたちに、「させてみる」「まかせてみる」場を設け、大人が「手や口を出さず見守る」ことで子どもたちが急成長したようです。今は子どもでも10年後には社会人。子どもは家庭で愛情を知り、学校で学力を身につけ、地域でモラルを教わると思います。「関係ない」ではなく、村民一人一人が子どもたちに関心を持って、栄村全体で未来の担い手を育てていきたいと思います。

公民館報

さかえ

第319号

平成29年10月1日発行

- 発行
栄村公民館
〒389-2703
長野県下水内郡栄村
大字堺 9214-1
- 電話
0269-87-2100
- 編集
栄村公民館報編集委員会

こらっせ通信

こらっせ来館者数のお知らせ

平成29年度来館者数

8・9月の来館者数 411名
29年度累計 2,266名

夏は帰省された方や成人式の写真を見に来られた方、団体での来館で大変にぎわいました。

開館1周年を記念して行った、栄村成人式写真展。村内出身の皆さんだけでなく、村外出身の方からも大変ご好評をいただきました。昔の自分を探したり、知り合いの方を探したり…。みなさんじっくりたつぷりとご覧になっていきました。たくさんの方にご覧いただくため、栄村総合文化祭でも成人式の写真を展示いたします。興味のある方は、ぜひお越しください。(文化祭展示期間は10月14日(土)～29日(日)までです。)

栄村自然学校!

稲刈りとはぜ基地づくり開催

9月24日(日) 栄村歴史文化館こらっせ周辺の田んぼで稲刈りとはぜかけを行いました。稲刈りやはぜかけは、どこの市町村でも体験活動として行っていますが、栄村自然学校はひと味違います。

まずは1年生から鎌を持つこと。安全指導をしっかりと行えば、1年生でも鎌をきちんと使いこなすことができます。2つ目は「せなかち」



と「になわ」を使って背中で稲を運ぶこと。「せなかち」をどのように使うのかを実際に体験します。3つ目は、はぜを作るときに三脚を代用するのではなく、昔ながらの縄で縛ったはぜを作ること。子どもでも結びやすいようにナイロンロープを使いますが、育成会の方より中高生リーダーに伝授していただき、子どもたちは何回も結ぶことができるように、はぜの作り方で基地をつくることを目標に、ジャングルジム

のようなはぜ基地を作ります。便利な世の中になり、そんな

に苦労をしなくても様々なことをこなしていける時代になりましたが、あえて地域の方が持っている知恵や技で重いものを運べることや、人が乗れるだけの建物ができることを体で感じることができました。また、そういう体験は、自分のことだけでなく周りにも気をつけること、息を合わせることも、力を加減することといったコミュニケーション力を必要とするものが多く、思いやりや協力し合う心を育むものが多くあります。次回(10月29日(日))は木白とトオミを用いてもみすりを行います。興味関心のある方はぜひ見学においでください。

栄村に様々な専門家が来村します♪

○植物博士 石澤 進先生

10月23日(月)～24日(火) 2日間
11月14日(火)～15日(水) 2日間

栄村自然植物園(北野)にて、初日は10時から、2日目は9時から作業を行います。山野草の話をしながら一緒に活動してみませんか?

○地域史料保全有志の会

古文書専門家 白水 智先生
民具専門家 石野律子先生

11月2日(木)～6日(月) 5日間
12月15日(金)～18日(月) 4日間

古文書班は栄村公民館にて廣瀬家文書の調査を行い、民具班は東部保育園にて市川家民具の調査を行います。興味のある方はぜひ栄村公民館へお越しください。

お問合せ先: 栄村公民館 (87-2100)

あーそんなことがあったんか
 〓千曲川の改修を目論むこと②〓
 〓先生の栄村昔語り〓 其の二十四



地域史料保全有志の会
 鈴木努 (通称:ど先生)
 イラスト作成:佐藤洋平

さて、前回は千曲川改修の願書の本文の冒頭を紹介しました。これに少し解説を加え、願書の背景を考えてみようと思います。

まず「連年の洪水で(川の)両岸が欠け、荒地になつてゐる」という部分です。飯山市域にあった旧常盤村の村史を見ますと、江戸時代にあたる慶長十三年(一六〇八)から明治元年(一八六八)にかけ、ざっと数えて一〇七回の洪水が列挙されています。千曲川沿岸はまさに連年洪水という状況だったことがわかります。

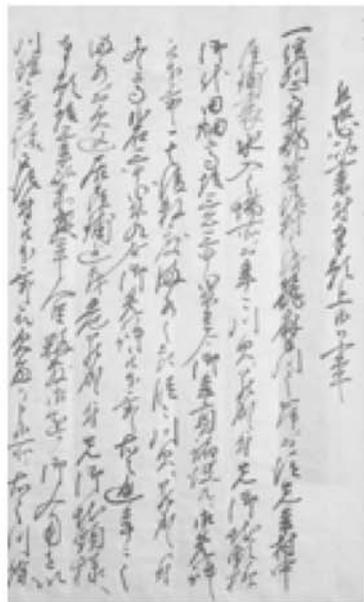
この時、栄村域では、村史堺編に元禄十一年(一六九八)から明治二十九年(一八九六)までの三〇〇年間に九回の千曲川洪水の記事があり、堺地区の千曲川洪水は箕作村の田畑に川欠地を生じ、近世の古文書には人家に洪水が迫る様子が書かれています。いっぽう水内地区は市河谷という急流地域ながら集落が千曲川よりずっと高所にあつたため人家に被害はなく、川添いの田畑への被害はあつたということでした。

このことは、次の「高井・水内両郡のうち川筋が偏つてゐる村々」という文言とも関わります。川筋が偏るのは千曲川の流路が広い氾濫原を東岸の高井郡と西岸の水内郡との間で蛇行するからで、この「願書」では千曲川が寄り付いてきてしまった村では、増水した千曲川に水が落ちず、逆水(逆流して支流に遡つてきた水な

どをいう)が生じて耕地が水浸しになり作物がだめになつてゐる、と言つてゐます。この蛇行がなぜ起こるのか、地形学の研究によれば、千曲川には立ヶ花と戸狩の二か所に狭窄部きょうさくぶがあり、長野盆地から立ヶ花の隘路あいちに入ると川幅が最大一〇〇メートルから四〇〇メートル以下に、また飯山盆地から柏尾橋のある戸狩の狭窄部に入る時は最大九〇〇メートルあつた川幅が三五〇メートル以下に絞られるそうです。いっぽうで川の勾配は長野盆地から戸狩に至るまで千分の一から千分の〇・六くらい(二〇〇〇メートル進んで高低差が一メートル以下)の緩やかな流れになつてゐます。ゆつたり流れる川の水が狭まつた場所を通るには、

狭窄部を前にどんどん溜まってゆく水で水位を上げ、その圧力で押し通るような具合になります。こういう場所は洪水が起こりやすく、川の氾濫が土砂を堆積させてゆくと川沿いに沖積平野ができ、農地に利用されるようになります。

戸狩の狭窄部を控えた千曲川西岸の常盤地区では享保九年(一七二四)まで同地区を領した飯山藩が、川沿いの平地で新田開発に力を注いでいました。しかし「水沢平」と呼ばれるこの辺りは、千曲川が東岸と西岸の間で瀬替り(流路が移動すること)を繰り返す場所、折角の田畑も河原になり流路になり、また干上つて耕地になるといふサイクルに組み込まれ、東西両岸いずれかがその時々「川筋が偏つてゐる村」になる憂き目を見ることになりました。なお、長野盆地と立ヶ花の方は、寛保二年(一七四二)に起きた「戌の満水」以降河川改修が進み、江戸時代後期には川の氾濫は激減したといわれています。続きます。



元禄時代の箕作村での水害を記した古文書
 (島田氏古文書)

栄村民として知っておきたい5つのこと～歴史編～

▶復元された長瀬新田遺跡の火焰型土器



かえんがたどき 火焰型土器 (長瀬新田遺跡)

長野県で初めて発見された火焰型土器。これは長瀬新田遺跡より出土した縄文中期の土器です。昨年行われたひんご遺跡の発掘調査でも50cmを越える高さの火焰型土器が出土しました(現在長野県埋蔵文化財センターにて調査中)。火焰型土器は主に新潟県津南町から長岡市にかけての信濃川流域で集中的に出土しています。日常的に使われるものではなく、祭事などの特別な時に使われた土器であると推定されています。

▶横倉遺跡より出土した石器



横倉遺跡

横倉遺跡を知らずして考古学を語れないというほど、考古学会では有名な横倉遺跡。昭和22年、山岸庄英氏(横倉)の畑から木葉形の石器が30点あまり、さらに昭和32年の調査で6点の計40点が発見されました。現在でも、旧石器時代から縄文時代の始めの時代に横倉型尖頭器とも呼ばれる均一性が高い完全な形の石器が40点も出土した例はありません。そのためデポ(保管所もしくは貯蔵所)ではなかったかと考えられています。

▶ほ場整備前の内池



豪族市河氏

市河氏は鎌倉時代から戦国時代にかけて、栄村志久見を本拠地にして栄えた地方武士です。市河氏の出身は甲斐市川郷(現在の山梨県市川大門)。源平の内乱時に信濃へ進出し、やがてこの地を治めていた中野氏と争い志久見郷を手に入れました。戦国時代には武田信玄の支配下に入り、信越国境の北端を守っていましたが、武田氏滅亡後は上杉について会津若松、米沢へと移りました。現在、市河氏が本拠地を構えていた内池には水田が広がり、一角を内池館跡として志久見集落の方によって保全・整備されています。

▶島田氏古文書



島田氏古文書

江戸時代に箕作村の名主を務めた島田家の古文書。江戸時代の箕作村は秋山郷も含んでいたため、切明の温泉や銅山、善光寺地震の被害、千曲川付近の水田に関わる水路の歴史、婚礼、獅子舞といった祭りの歴史がわかる貴重な古文書です。古文書は数千点にもなり、村宝に指定されています。

▶図宮坂武男著「山城探訪 第十一集水内資料編」より



せつとじょう 仙当城

仙当城は月岡地区大巻川の南側にあり、市河氏の要害城として築かれたと伝えられています。仙当城は堀が大きく、堀の一部を掘り残して土橋にした箇所や堀中道があり、戦国時代の城郭構造を知る上で貴重です。現在、山城は月岡集落の皆さんによって保全・整備されています。

薬師寺より縁の瓦が里帰り

えにし かわら

平成21年より10か年計画で進められた薬師寺東塔の大修理にて、学校名が刻まれた屋根瓦が4,815枚発見され、その中から堺中学校と堺小学校の名を刻まれた瓦が発見されました。

この瓦は昭和27年に薬師寺の修理を行った際に、有志校が各家庭や教員から寄付金を集めて寄進したもので、長野県の小中高等学校308校から寄進があつたようです。
今回確認された瓦の中で、再び塔に上ることのできない瓦は該当する

学校へ「里帰り」という形で返還されることとなり、平成29年7月に栄小学校、栄中学校へ返還されました。この瓦は、戦後間もない堺村で薬師寺改修のための寄付活動が行われたことを私たちに伝えてくれています。
(この瓦は栄村総合文化祭にて展示します。)



▲里帰りをした瓦



講座開催のお知らせ

○ストレッチポール教室

ポール(支柱)を用いたストレッチで体幹を鍛え体調を整えよう

期日：11月6日、13日、20日、27日
毎週月曜日 計4回

時間：午後7時～午後8時

会場：栄村役場 2階大会議室

講師：宮崎栄子(野沢温泉村)

収穫野菜の あんな形こんな形募集中

秋は実りの季節。芋ほりに大根・人参洗い。時におもしろい形や珍しい形をした物が出てくる可能性があります。そんなおもしろ野菜を発見した方はぜひ栄村公民館87-2100までお知らせください。(野菜への装飾可)



長瀬：齋藤進さん宅▶

気になる話題…「学校給食」

最近なにかと話題の学校給食。話題に上がる学校給食は「センター給食」や外部委託といって学校外の施設で給食が作られ、学校まで運ばれてくる給食が多いようです。そこで気になるのが栄村の給食。栄村は保育園36名、小学校45名、中学校40名と子どもは少数ですが、子どもたちに温かくておいしい料理を提供するため、それぞれの場所で調理をしています。

村内の保育園・小中学校では、年に1度授業参観の際に給食試食会が行われています。ある方がその様子をSNSに投稿したところ、「自校給食がうらやましい」「こんなにおいしい給食だったら残さなかった」「自校給食でもこれだけ手の込んだものが出るのは小規模ならでは」「栄村の学校に通わせようかな」と自校給食をうらやむコメントが多数寄せられました。

そんなうらやましがらる栄村給食は、どのように作られ、どのように提供されているのでしょうか。次号(12月号)で詳しく紹介します。



おおきくな〜れ

やさしい、
おもしろいだいあき

はやと まさき あみ
勇人くん **昌己**くん **有未**ちゃん
(6さい・右) (3さい・左) (1さい・中)

ケンカもするけどいつも一緒に遊んでいるお兄ちゃん。
妹も負けじと声を出しています。

滝沢良幸さん・智子さん宅(横倉)



年輪 (148)

年輪は風雪に耐えて積み重ねた歴史であり銘木の条件でもある。
激動の明治・大正・昭和そして平成を生きてきざみ込まれた人
生の年輪は磨かれた銘木のごとく輝く。

- ①人生を振り返ってみて…
- ②うれしかった・楽しかった
思い出は…
- ③今思うこと・言いたいこと



山岸知子 横倉 (82歳)



山岸忠治 横倉 (86歳)



島田輝二 青倉 (87歳)

①横倉生まれ。国民学校を卒業後、横倉駅前にあった中村合板に就職。昭和31年に結婚。栄村初の公民館結婚式を挙げた。横倉地区の子どもは中条にあった水内小学校までの4キロの山道を毎日草履で通っていたので、草履は3日でボロになった。子どもの頃はまだ戦時中で、「戦争に負けたら敵が攻めてくるから百合居橋から飛び降りなければならぬ」という話もあった。

②子どもが生まれた時はうれしかった。終戦を迎えた時もうれしかった。統制されていた時代からいっぺんに解放された。今でもその時のことを忘れられない。

③経済の方が優先されがちだが、健康に勝る幸せなし。健康で皆さんと連帯感を持ってみんな仲良く暮らしていきたい。

①横倉生まれ。尋常高等小学校高等科を卒業後、長野県桐材株式会社横倉工場(以下、下駄工場)で働いた。当時下駄工場には20人を超える社員がいて、木を伐採するところから製材をし、半製品(仕上げを行わないもの)を大阪や京都へ出荷していた。時代の流れと共に下駄の形も少しずつ変わり、デザインナーと共におしゃれ下駄の制作にも取り組んだ。

②長男が誕生した時はうれしかった。平成5年に桐下駄の組合が解散した時は本当に切なかったが、当時の村長や専務に一人でも続けたらどうかと勧めていただいたときは本当にうれしかった。

③希望や望みはいろいろあるが、健康でいつまでも、桐下駄に限らず農業や百姓などの仕事を続けていきたい。

①青倉生まれ。尋常高等小学校を卒業後、海軍を志願して試験に合格。入隊するときは大勢の方から見送られたのを今でもはつきりと覚えていて。入隊後、奈良海軍航空隊で3か月教育を受けて茨城県の海軍航空隊へ。週に1度は空襲に遭い、その度に林へ逃げ込み、木の陰に隠れていた。終戦後、栄村へ戻り泉平や箕作の奥山で伐採をしていた。その後土木業へ就職した。

②結婚前から文通をして付き合っていた現在の妻と結婚できたときはうれしかった。車の免許に合格し、自分の車を持てた時は最高にうれしかった。

③世の中を変えるためには勉強をして、その活動に参加することが大切。世の中を変えるための運動を死ぬまで続けていきたい。

